

---

## 悪いおっさんケース2

シー様（借りの返せない男）

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

悪いおっさんケース2

### 【コード】

N2589P

### 【作者名】

シー様（借りの返せない男）

### 【あらすじ】

これは俺がある男に暴力受けた際に感じた理不尽感を形にしたものの。

僕は、いきなり変な叔父さんに殴られた。  
ほんとに、いきなりだった。

わけがわからない。

どうして、なぐられなきゃいけない。

僕は、何も悪い事をしていない。

殴られる理由なんてない。

叔父さんは言った。

「君は悪くない。悪いのは叔父さんだ。これは君の為でもあるんだ。」

これから、君は人を殴るから、私が先に、お仕置きとして、殴ってあげたんだ」

僕は、腹が立った。

この変な叔父さんを思わず殴り返した。

だが通用しない。何度殴つても通用しない。

僕は、幼稚園児だから、通用するはずがない。

僕は、大声で助けを呼んだ。

ここは、幼稚園の庭だ、直ぐに助けが来てくれるはずだ。

だが、助けは来なかった。

待てども待てど、誰も来ない。

「君は今、叔父さんを殴ったね。10回くらい殴ったね・・・  
せっかく先にお仕置きしたのに、反省しないんだね・・・」

叔父さんはそういうと、僕を何度も何度も殴りつけた。

僕の口は切れた。前歯が折れた。血が沢山落ちる・・・

「これで、君が殴った分のお仕置きは終わりだ。」  
叔父さんは、そういうと、また殴り始めた。

どれくらい殴られただろう。  
殴られている間叔父さんは、同じ事をしゃべっていた。

「君は悪くない。悪いのは叔父さんだ。。これは君の為でもあるんだ。」

これから、君は人を殴るから、私が先に、お仕置きとして、殴ってあげたんだ」

叔父さんの行為は終わることは無かった。

僕は、心の中で誓い続けた、2度と人は殴らないと・・・

気が付くと、僕は、布団の上だった。

周りには、友達、先生たちが居る。

僕は、全身に痛みが走った。

僕の体は、全身あざだらけだった。

僕は、一部始終を先生に話した。

先生は、学芸会で、ピアノの練習をしていて、僕の助ける声は聞こえなかったようだ。

叔父さんの姿も誰も見なかったという。

叔父さんは、いつまでたっても警察には捕まらなかった。

それからの僕はケンカに負けることはなかった。

叔父さんのした人道的じゃない苦しみを知っていたから、子供のパンチなど痛くないと思った。

けれど、人を殴ると、いつも叔父さんの顔を思い出した。

僕は、叔父さんが、また、いつか来るような気がして、できるだけケンカはしないようにした。

(後書き)

これは俺がある男に暴力を受けた際に感じた理不尽感を形にしたもの。でも、ある意味、人はこういう理不尽感を得るからこそ、人の痛みが判る様になる気がする。

暴力は肯定するけど、でも、頼むから程々にしてくれ、

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2589p/>

---

悪いおっさんケース2

2010年12月10日03時21分発行